

学 年 第3学年

単元名 わたしたちの町の安全 守り隊

1 単元について

【単元観】

本校の学区は、住宅地や商店があり利便性が高い。車がスピードを出しやすい道が多く、正門の前には信号のない横断歩道があり、今までに何度か車との接触事故を起こしている現状がある。また、校区にはいくつかの団地があり、防犯や交通安全の面で考えるといろいろな危険が潜在している地域ともいえる。

この単元では地域に出かけて調査をし、安全マップにまとめたり表現したりすることを通して、課題解決能力やコミュニケーション力を育成するとともに、危険予測能力を高め、安全に行動できる力を育成するのに適している。

社会科学習との関連もあり、教科横断的に展開することができる。

【児童観】

本学年の児童は、探究的な活動では、2年生のときに国語科や生活科で図鑑等を活用して調べたり紙にまとめて書いたりしている。しかし、自分で課題を設定して追究したり、情報を整理してまとめたり表現したりすることは難しい児童が多い。また、事前に行ったアンケートの「危ない、危険な所はどんな所か分かりますか。」という質問に対しては、96.8%の児童が肯定的な回答をしていた。しかし、漠然とした場所しか見当がつかず、具体的なイメージがもてていない。これまでも事故について指導をしているが、危険回避は意識されていない現状があり、自分の身を自分で守ることは十分とは言えず、危険予測能力が付いているとは言えない。

【指導観】

導入段階では、社会科の校区探検でそれぞれの地域の特徴をまとめさせる。「車の通りが多い。」「道がせまくて危険を感じた。」などの探検で感じたことをもとに、「わたしたちの町を安心・安全にするために自分たちができることを考えよう」という単元全体の学習課題を設定していく。また、「この地域は安心安全と言えるだろうか。」という問いを投げかけることで、身近な問題として捉えさせたい。

安全マップの作成にあたっては、自分たちが収集した情報から、必要な情報を整理したり、分析したりしやすくするため、思考ツールを活用したり、座標軸を用いたフリップボードを活用したりするなどの方法を用いて、考えやすくさせる。その際、相手や考える視点を明確にして、整理・分析をすることを大切にしながら指導していくことで、より伝わりやすい安全マップの作成ができるのではないかと考える。また、ただの地域マップになってしまうように、犯罪が起こりやすいのは「入りやすい」「見えにくい」場所であるという視点を確認することで、「地域の安心安全」を考えたマップづくりを目指していきたい。

まとめたり発表したりする際はグループを構成し、友達と協力して学習活動に取り組ませるようにするとともに、発表する場を設けることで相手意識を明確にし、学習へ取り組む意欲を高めていく。これらの活動を通して、課題解決能力やコミュニケーション力を育成するとともに、危険予測能力を高め、安全に行動できる力を育てることをねらいとしたい。

2 単元の目標

- 焼山をより安心安全な町にするため、調査をして安全マップを作成し、発信することを通して、自分たちができる地域の安心安全について考え、実践に生かすことができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能	コミュニケーション力	自らへの自信
①集めた情報を比較・分類するなどして、整理することができる。 ②危険なところや安全なところはどんなところか理解している。	①身近な生活や体験の中から調べてみたいことを見付けている。 ②理由を示して、自分の考えをまとめている。 ③自分の考えや思いをさまざまな表現方法でまとめたり、伝えたりしている。	①学習したことを基に、町の安全のために自分ができることを考えようとしている。 ②協働的に課題解決に取り組み、ねらいに向かって粘り強くやり抜こうとしている。

4 単元の計画（全35時間）

次	学習活動	評価	
		評価規準	評価方法
第一次 ⑤	課題の設定 ○ 自分たちの町はどんな町かを知る。	【知識・技能①】 ・情報を比較・分類してそれぞれの地域の特徴をまとめている。 【思考・判断・表現①】 ・地域の様子について情報収集をしている。 【主体的に学習に取り組む態度①】 ・安心安全な町とはどんな町なのかを考えようとしている。	ワークシート
	情報の収集 ○ 地域に出て、町の様子を見る。 ○ 保護者等に意見を聞く。		ワークシート
	整理・分析 ○ 集めた情報を整理して、地域の安全について話し合う。		行動観察
第二次 ⑮	新たな課題の設定 ○ 町の安心安全のためにできることを考える。	【主体的に学習に取り組む態度②】 ・町の安心安全のためにできることを協働的に考えようとしている。	行動観察

<p>（本時 8 ／ 15）</p>	<p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 伝えたい相手や伝えたい方法について考える。 ○ 効果的に伝えるにはどんな方法があるのか考える。 ○ 自分たちができることを整理分析する。 ○ 安全マップにどんなことをのせるのかを考える。 ○ フィールドワークをするためのグループや役割、マナーなどを考える。 ○ 犯罪が起りやすい場所の視点を確認する。 ○ フィールドワークにでかけて、交通安全・防犯の視点で調査する。 <p>まとめ・表現・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全マップをつくる。 	<p>【思考・判断・表現②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報をもとに、理由を示して、自分の考えや思いを表現している。 <p>【知識・技能①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を整理し、目的に合った方法で地域安全マップ作りをしている。 	<p>ワークシート 行動観察 タブレット</p> <p>作品</p>
<p>第三次 ⑮</p>	<p>新たな課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全マップに表したことをもとに、町の安心安全のためにできることを実行する。 <p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どうすれば分かりやすい安全マップになるのかを考え、改善する。 ○ 作成した安全マップを発表する。 ○ 安全マップをこれからどう活用するか考える。 <p>実行・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全マップの作成や発表の振り返りをする。 ○ この活動を通して、学んだことや身に付けたことを振り返る。 ○ これからの自分にできることを考える。 	<p>【知識・技能②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全マップの学習を通して、安全や危険について理解している。 <p>【思考・判断・表現③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを整理しながら友だちと考えを交流し合っている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全マップ作成の過程で調べたことや考えたことをもとに、自分にできることは何かを考えて行動しようとしている。 	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>作品</p>

5 本時の目標

- 座標軸を用いて、整理・分析をし、安心安全な町にするために自分たちができるよりよい方法を考えることができる。

6 本時の展開 (第二次 8時間目/全15時間)

学習活動	指導上の留意点	評価規準 〔観点〕 (評価方法)
<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 事故や事件をどうしたら防ぐことができるのか前時に集めた情報を確認する。</p> <p>○ 収集した情報の項目をあらかじめタブレットで作成し、配付しておく。</p> <p>○ 考える点を明確にして、伝える。</p>	
<p>安心安全な町にするために、自分たちができるよりよい方法を考えよう。</p>		
<p>3 タブレットを使って、収集した情報を自分なりに整理する。</p> <p>4 自分の考えをグループ内で交流し合い、どの方法がよりよいかについて分析する。</p> <p>5 各グループで決定した方法を全体で交流する。</p> <p>6 全体で交流した意見をもとに、意見をまとめる。</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<p>○ 座標軸の使い方について、例を提示しながら伝える。</p> <p>○ 座標軸を用いることで、考えを整理して、よりよい方法を選択できるようにする。</p> <p>○ 整理した後、自分の考えを、理由とともにグループ内で意見を交流し合うことを知らせる。</p> <p>○ タブレットの座標軸をもとに、分類した理由を説明させる。また、お互いの意見や考えを交流し合い、自分の考えをより深められるようにする。</p> <p>○ 実現できるか、一人でできるかを考えさせながら、フリップボードへまとめさせる。</p> <p>○ 分け方や根拠をもとに、自分たちの意見と比べさせる。</p> <p>○ 各グループの考えを交流させ、共通点や相違点を見付けさせる。</p> <p>○ 目的を明確にし、効果的な方法を決定する。</p> <p>○ 選んだ方法で計画を立てて行くことを知らせ、今後の活動での意欲につなげる。</p>	<p>○ 収集した情報をもとに、自分たちができるよりよい方法を考えている。</p> <p>〔思考・判断・表現②〕 (行動観察、タブレット)</p>
<p>振り返り例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全マップを作って、危ないところを分かりやすくみんなに伝えたい。 ・ 友達の意見を聞いて、安全マップにまとめるのがいいと思った。 ・ タブレットを使ったことで、理由をつけて、自分の考えを友達に伝えることができた。 		

7 成果（○）と課題（★）

- 本単元は、前学年の生活科や社会科の学習と教科横断的に構成し展開することができた。児童にとって身近な課題について聞き取りやフィールドワーク等を意欲的に行って追究することで、児童の課題発見・課題解決力、コミュニケーション力を育成することにつながった。また、地域の交通安全推進委員会や補導員連絡協議会等の組織も教育活動に対して協力的であり、地域の方々と一緒に本校区の課題について学習することで、地域社会の一員としての自覚を育成するとともに、自分たちの実践が地域に役立つことで自らへの自信も培うことができた。
- 本時では、教師からマップを作ってまとめようと提案するのではなく、新入生に分かりやすく伝えるための方法を児童が自分たちで考えることができるよう工夫した。このことにより、児童が誰のために、何のために安全マップをつくるのか、共通に理解するとともに、主体的にマップ作りに取り組むことができた。 【自らへの自信】
- タブレットの座標軸を用いてグループ内で意見交流をすることで、意見を分類・整理しやすくなった。また、各グループの考えを交流する際に共通点や相違点を考える場をもった。これらの学習は児童の思考力や判断力の向上につながった。 【コミュニケーション力】
- ★ 本時の目標を「安心安全な町にするために自分たちができるよりよい方法を考えることができる。」と設定した。しかし、本時は、1年生に分かりやすく伝える方法についてグループで考え、学級全体でまとめる展開になっていた。安心安全な町にするための方法は、広報、調査、嘆願、制作等、多様な方法が考えられる。本時の目標と展開にズレがあったため、目標を意識した展開を考えていく必要がある。
- ★ 新入生に伝えることにすると実践時期が次年度になってしまうので、入学前に発表する場が設定できないのであれば、今年度の1年生に伝えるようにした方がよいと考える。
- ★ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は地域の方々を招いて一緒に活動することができなかったことはとても残念である。地域の方々とのつながりを今後も継続していきたい。